

中山文部科学大臣 宮崎大学医学部附属病院を視察

— 現職文科相22年ぶり —

5月30日（月）中山成彬文部科学大臣が本学を視察されました。現職の文部科学大臣が本学を視察するのは約22年ぶりで、住吉学長から約40分にわたって大学概要の説明を受けられました。この後、医学部キャンパスへ移動し、河南医学部長、江藤病院長から約20分にわたり地域枠推薦入試や病院再開発構想などについて話を聞かれた後、病院長の案内で放射線部や検査部患者待合室、内科外来、病棟および外来ホールなどを視察されました。中山大臣は病院長の説明に耳を傾けながら時折質問され、設備やスタッフの様子を熱心にご覧になっていました。また、入院患者さんに「早く元気になってください」と励まされていました。



5階西病棟ナースステーションを視察される中山文部科学大臣(写真中央)
(左側は江藤病院長、右側は住吉学長)

大空から「幸せの花」届く

— すずらんが贈られました —

6月14日（火）全日空（ANA）から、本院へスズランの鉢植えと押し花が『大空から「幸せの花」をお届けします』のメッセージとともに届けられました。

この大空からの贈り物は、全日空の善意により「患者さんが一日も早く健康になり、スズランの花言葉の“しあわせ”が訪れますように」と願う気持ちを込め、毎年全国各地の医療施設へ贈られているものです。

スズランは、本院玄関前で全日空客室乗務員から直接、小児科の入院患者さんと江藤病院長ほか病院職員へ手渡されました。患者さんは、はにかみながらもうれしそうな様子でした。

この後、届けられたスズランの鉢植えは小児科病棟へ、幸せを願う気持ちを託した押し花は各病棟へ配られました。スズランの鉢植えが飾られた小児科病棟ナースステーションでは、訪れた患者さんが「幸せの花」にしばし足を止めておられました。



全日空客室乗務員から手渡されたスズランを持つ小児科病棟の入院患者さん

地域のニーズにこたえる医療

精神科 助手 長友慶子
教授 石田 康

精神科では大きく6つの疾患群を診察しています。統合失調症（精神分裂病）などの精神病、うつ病などの気分障害、神経症、痴呆（認知症）、てんかん、発達障害などの児童思春期疾患です。

今回は、修正型電気けいれん療法と、その治療法の対象の一つでもあるうつ病への取り組みについて紹介します。

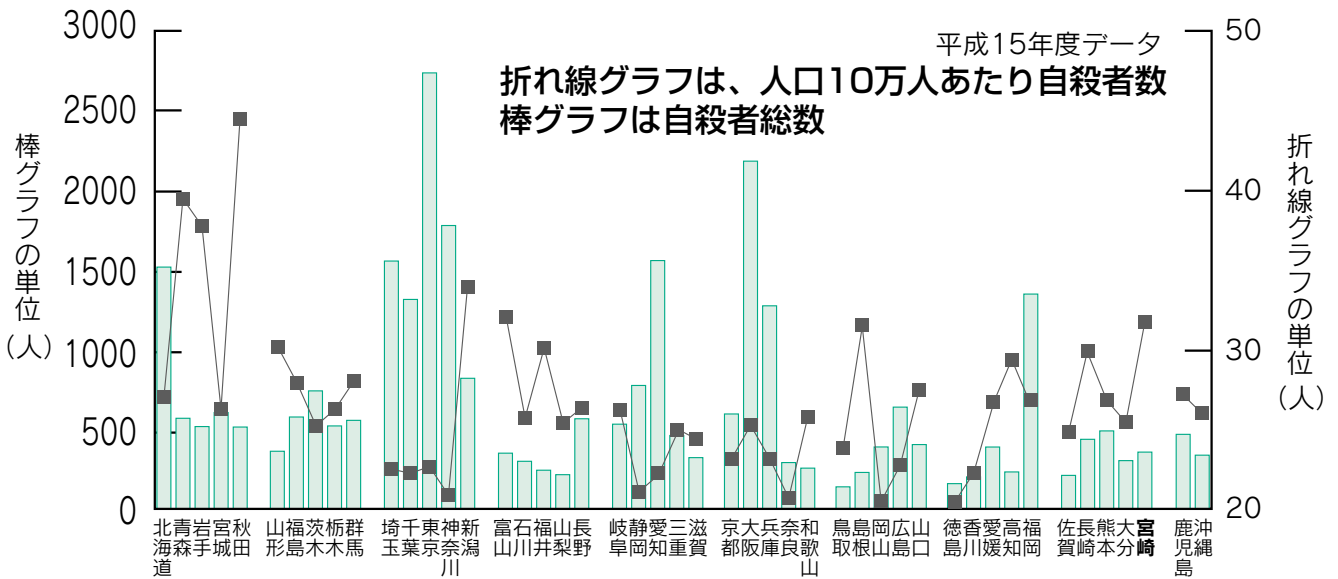
電気けいれん療法は、約70年前からある治療法で、薬による治療で効果がない難治性うつ病の患者さん（なかには食事も摂らずに亡くなってしまいう方もいらっしゃいます）、焦燥（理由なく生じるあせり、いらだち、興奮など）や自殺願望の強い患者さんなどに約100Vの電流を頭部に3～5秒間流し、症状の改善を図る方法です。どうしても薬で効かなかった症状が、劇的に改善することがあるのですが、頭部に電流を流すということに恐怖感やマイナスイメージを持たれていました。しかし最近、修正型電気けいれん療法といい、麻酔科医が全身麻酔をかけ、筋弛緩剤を投与して、けいれんを起こさないような状態にして精神科医が患者さんの頭部に通電する方法が一般的となり、電気けいれん療法が見直されるようになりました。なぜ、電気けいれん療法が効くのかはわかっていない部分も多いのですが、即効性があり、けいれんが起きないようにするため、骨折などの心配もほとんどなく、高齢者でも比較的安全に行えるようになりました。

このため、県内各地の病院から多くの患者さんが修正型電気けいれん療法を受けるために紹介されてくるようになりました。ただし、紹介されてきたからといって、患者さんご本人とご家族からの同意が得られなければ、この治療を行うことはありません。この療法の効果判定は、臨床症状でもわかりますが、精神症状を客観的な指標を用いて評価したり、脳血流量を脳血流シンチグラフィ（SPECT）という検査で客観的に評価しています。

宮崎県が自殺率の高い県（平成15年度は全都道府県中6位）であるということは、意外に知られていないことではないでしょうか。全国での自殺者は年間3万数千人といわれており、交通事故による死亡者数の約4倍で、年々増加傾向にあります。ある調査によれば、自殺で亡くなる方の約半数はうつ病あるいはそれに近い状態（うつ状態）であるといわれています。当科では、「気分が落ち込む」「物



都道府県別自殺者数



都道府県別自殺者数(平成15年度の厚生労働省のデータより)

注：人口10万人に対する自殺者数の比率は、秋田県がワースト1,次いで青森、岩手、新潟、富山と高い。宮崎県は全国6位。

事すべてに興味がわかなくなった」「眠れない」などのうつ病と思われる症状を抱えた患者さんに、早めに休養をとることを勧め、薬物療法を開始し、本人や家族への疾病指導を行っています。なかには「仮面うつ病」といい、身体の不調ばかりを訴え、内科・整形外科・婦人科などの身体科を受診するが検査では異常はなく、抗うつ薬による治療が効果的な患者さんがいます。他科の医師の協力のもと、身体症状という「仮面」に隠されたうつ病を早期に発見し治療へ導入をすることもあります。

そのほか当科では、睡眠時無呼吸症候群などの睡眠障害が疑われる患者さんへのポリソムノグラフィーという検査も短期間の入院で可能です。また、確立された治療法ではないのですが、**経頭蓋磁気刺激療法**といい、磁気を頭部にあてる治療もうつ病その他の疾患を対象に試験的に行っています。

今後も、さまざまな治療法を取り入れて、患者さんや、患者さんのご家族のお役に立ちたいと考えています。



ポリソムノグラフィー検査の様子（窓硝子の奥は検査台）



経頭蓋磁気刺激療法

看護体験実習を通して

医学科学生感想から

本学医学科では、1年生を対象に看護体験実習を行っています。附属病院で看護師の指導を受けながら、夜勤業務を体験して、患者さんのことや人間同士がふれあうことの大切さ、生死とは何かを考え学びます。また、医療の現場での看護業務の重要性を認識し、医師との関わり方やいろいろな職種が連携して行うチーム医療について学習します。

今年度は、5月13日から6月25日にかけて、101人の医学生が実習を受けました。今回、学生がまとめた感想の一部をご紹介します。

医学科1年：小林 真希

看護師の仕事は医師の補助的な役割だと思っていたが、今回の実習を体験し、患者さんの精神的な支えが大きな役割だと思った。看護師は常に患者さんの近くにおいて、少しの変化にも気づいている。患者さんにとっては命に関ることとして、小さなことにも配慮している感じがした。

看護師の「看」は、「ちゃんと手を当て感じて、目でよく見る」と書く。と教えられたが、本当にそうだと思った。私は医師を目指しているが、この実習を終え看護師のような医師になりたいと思う。

医学科1年：塩屋 悠斗

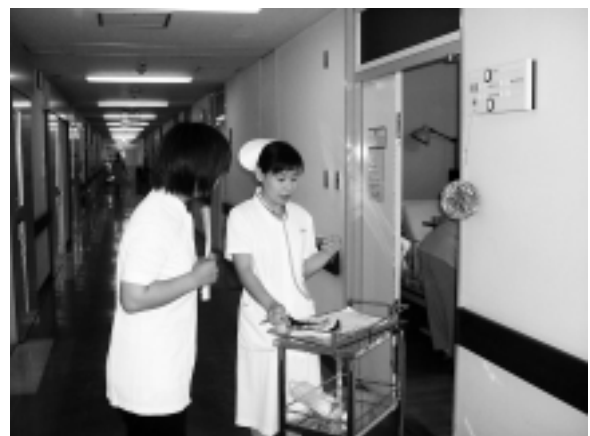
17時20分、緊張しながら実習病棟へ向かった。自分には何もできないが、肌で何かを感じようと思った。

実習の中で印象的な場面を二つ挙げる。ひとつは、看護師が就寝前に各部屋のブラインドを降ろしていた時、「外が見えんと寂しか」という患者さんに対して、外が見えるようにブラインドの高さを調節した場面である。

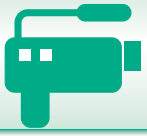
もうひとつは患者さんの痰を取る時、看護師は痰を取るだけでなく、患者さんの表情や身体の動きを観察していた。患者さんは人工呼吸器を着けていたが、何を行う時にも説明し、終わった後はねぎらいの言葉をかけていた場面である。



18:00夕食を配膳しました。



17:30夕方の検温時間です。看護師と病室を訪問しました。



大学スタジオからNHK番組への 生出演を始めました

医療情報部 教授
助教授

荒木賢二
鈴木斎王

メディア企画室では宮崎大学から積極的に情報発信しようと考え、本学総合教育研究棟1階にあるマルチメディアスタジオとNHK宮崎放送局を宮崎情報ハイウェイ21という高速ネットワーク回線で繋ぎ、大学スタジオから、番組への生出演を始めました。第一回目は試験的な放送として「ニュースまるごと宮崎」のなかで、スタジオの紹介とともに「インフルエンザ」についての放送を行いました。第2回目からは、以下のとおり毎月1回のペースで「いっちょがワイド」に生出演しています。

今後も大学の特性を生かし「健康や医療を分かりやすく伝える」ということをテーマに情報を提供していきたいと思います。

(これまでの放送)

第1回 平成17年1月12日(水) 18:10~18:55の間の約7分間

NHK番組「ニュースまるごと宮崎」

本学出演者：医療情報部副部長 鈴木斎王助教授
医事課医療情報係 脇元直彦主任

放送内容：本学マルチメディアスタジオ紹介
「インフルエンザについて」

第2回 平成17年4月7日(木) 18:10から18:55の間の約7分間

NHK番組「いっちょがワイド」☆健康チャンネル

本学出演者：臨床検査医学講座 岡山昭彦教授

放送内容：「関節リウマチ」

第3回 平成17年5月12日(木) 18:10から18:55の間の約7分間

NHK番組「いっちょがワイド」☆健康チャンネル

本学出演者：精神医学講座 石田 康教授

放送内容：「うつ病」

第4回 平成17年6月2日(木) 18:10から18:55の間の約7分間

NHK番組「いっちょがワイド」☆健康チャンネル

本学出演者：機能制御学講座 丸山真杉教授

放送内容：「みそを使った健康づくり」

(今後の予定)

第5回 平成17年7月7日(木)

18:10から18:55の間の約7分程度

NHK番組「いっちょがワイド」

☆健康チャンネル

本学出演予定者：副学長 名和行文副学長

放送内容：「うまいものはこわい？」

第6回 平成17年8月4日(木)

18:10から18:55の間の約7分程度

NHK番組「いっちょがワイド」

☆健康チャンネル

本学出演予定者：救急医学講座 岡本助教授

放送内容：「心肺蘇生について」



第2回 岡山教授生出演時の本学スタジオ風景



患者さんの声に対するご回答



本院では、1階外来ホールや各病棟等に投書箱を設置して患者さんの声をお聞きし、より患者さんの立場に立った医療やサービスをご提供したいと考えています。お寄せいただきましたご意見に対しましては、随時、投書箱の横にご回答を掲示していますが、このコーナーでは、その一部をご紹介します。今後とも、ご意見やご不満な点がありましたら、遠慮なくお寄せ下さい。

ご意見

病院の玄関が喫煙所と化しています。いつそのこと病院の敷地内を禁煙にさせていただきたく思います。

ご回答

本院では、郵便局横の空き地の喫煙所と、ご指摘の病院玄関前の喫煙所の2ヶ所を設置し分煙を行って、喫煙されない方に迷惑がかからないように配慮しております。今後、敷地内禁煙への移行も考えられますが当面は喫煙者にマナーを守り喫煙して頂くように、ご協力頂いております。

ご意見

朝の再診受付について、朝7:00に病院に来院した人も後から来た人も同じになることが納得いかない。遠方から早朝に来院した患者を優先することを強く希望します。

ご回答

外来患者さんの待ち時間が長いという問題は、本院が定期的に行っている「患者満足度調査」において、最も患者さんのご不満が多い点です。そこで、本院では、医師や看護師で何度も話し合い、再診については、来院順ではなく予約順とすることとしました。それに伴い早朝の順番取りをするための「番号札」も撤去いたしました。それは、この番号札を取るために、朝6時や7時から2時間も3時間もお待ちになる患者さんが多かったためです。

そこで再診については、原則完全予約制にしましたので、再診を希望される方は、診察時に予約をしてお帰りください。予約をされますと予定時間の10分ほど前にご来院いただければ十分に間に合います。また予約の後、都合が悪くなった場合は、電話での予約の変更もできますので、どうぞご活用ください。

本院の理念

- 患者中心に、心のこもった最適な医療の実践
- 地域の人々の要求にこたえる医療の実践
- 先端医療の開発と提供
- 幅広い知識・確かな技術を備えた人間性豊かな医療人の育成
- お互いを尊重し、力を合わせて医療に取り組み、働くことが楽しい病院づくり

患者さんの権利

本院は患者さんの権利を守ります。

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受けることができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

● 編集事務 ●

宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携推進センター

〒889-1692 宮崎郡清武町大字木原5200
電話(0985)85 9165